



HABITAT まちづくり通信 イラク特集号 Vol.1



「再建中の中学校(サマーワ)」

国連ハビタットは、都市とまちづくりの国連機関です。世界の全ての人々に適切な住まいを確保することを使命としています。国連ハビタット福岡事務所がアジア太平洋地域事務所として、28 カ国を管轄し、アフガニスタンやカンボジア等において様々な活動を行っていることは、皆さん既にご存知いただいていることと思いますが、実は本来管轄地域外でありながら、同事務所が積極的に支援事業を進めている国があります。イラクです。

イラクとハビタット

イラクでは、旧フセイン政権に対する経済制裁や過去 2 度の戦争と、その後の略奪行為などによって、学校などの教育施設や公共施設、電気、上下水道やごみ処理施設など市民の生活に必要な不可欠なインフラが甚大な被害を受けました。国連ハビタットは、戦争以前よりイラクにおける人道支援事業を行っていましたが、戦後もいち早く被害状況を確認するなど復興支援に取り組んできました。2004 年 1 月からは日本政府の支援を受け、バグダッド、バスラ、サマーワなどの都市において最も被害の大



「被害を受けた高等学校(バスラ)」

きかった幼稚園・小学校・中学校を約 200 校選定し、壊れた窓ガラス、ボロボロにはがれた壁や雨漏りのする天井、使用できない水道施設などを修理し、教室に机や椅子、黒板などを設置したり、また戦争で夫を失った世帯を中心に住宅の再建などを行っています。

イラクの学校を再建する人達



「再建中の中学校(サマーワ)」

2003 年夏には、イラクの首都バグダッドで国連事務所が爆破され、国連職員を含む多数の死傷者が出るという大変残念な事件が起きました。そのため、イラク人以外の国連職員はイラク国外へ退去せざるを得なくなりました。現在、国連ハビタットのイラク事務所はバグダッドから隣国ヨルダンやクウェートに一時的に移設し、そこから電話、E メールやテレビ電話などを通じてイラク国内に残るイラク人職員と日々連絡を取りながら再建事業を進めています。

現在ヨルダンの首都アンマンにおいて、国連ハビタットのイラクにおける日本政府支援事業の全てを担当するマネージャーのグッドウインさんは、昨年の秋までイラク国内に駐在していた職員の1人です。「国連ハビタットのイラク支援事業に携わって4年になります。戦争の間も、北部やバグダッドを中心に、住宅や生活インフラの支援事業を行ってきました。しかし、残念ながら、その中でも現在が最も困難な時期だと言えるでしょう。」イラク市民の生活をも脅かす不安定な治安情勢や、国内主要交通路の遮断などによる建設資材調達の困難、再建現場で働くイラク人たちの身の安全の確保など、心痛の種は尽きない上に、グッドウインさん自身が現場に立って指揮を取る事ができないことが大変もどかしいのだそうです。

そんなグッドウインさんに代わって、イラク国内で直接再建事業を進めているのが国連ハビタットのイラク人職員です。彼らも、戦前からイラクの人道支援事業に携わってきたベテラン職員ばかりです。例えば南部の都市サマーワでは、現在7名の職員が学校再建や住宅再建の事業に携わっています。サマーワは旧政権の時代から公共設備やインフラの整備が事実上ないがしろにされてきた地域で、あらゆる施設の老朽化、劣化が目立ちます。しかも、戦後横行した略奪によって、教室の机や椅子はもちろんのこと、窓枠やコンクリートの中の鉄筋まで剥ぎ取られた建物まであります。彼らは、その被害状況を正確に把握し、再建工事に必要な日数や費用を算出し、入札を経て建設業者を決定します。「私たちの再建事業に直接携わるのは、全て地元イラクの人々です。サマーワの学校再建であれば、必ずサマーワ在住の建設会社が工事を行い、サマーワの人々を雇用します。また、工事の過程で、建設会社や工務店の職員にも技術指導を行います。再建事業を通じて、地元企業の技術力や競争力の向上に貢献することも、国連ハビタットの復興支援の重要な要素なのです。」しっかりとした設計のもと、イラクの人々の手によって耐久性の高い施設を建設する。そして長い年月の経過の中で、イラクの人々の手によって塗装が塗り替えられ、修理が施され、その地域の人々とともに成長を続ける。そのような再建を行うことが、グッドウインさんの理想なのだそうです。「私たちは、イラクの復興を支援していますが、それができる限りイラクの人々の手による自立支援となるよう努力しています。国連ハビタットの職員が残す足跡は目立たないよう、残らないよう、それが私の信条です。」

こうして2004年3月に開始した学校再建事業はすでにイラク国内3都市で約40校の再建を完了しており、(11月末現在)現在も100校以上の学校が工事中です。

私たちの幼稚園が生まれ変わった！

サマーワ市郊外にあるアル・ウオーロード幼稚園は、戦争の被害こそなかったものの、老朽化や施設の劣化がひどく、教室の電気は故障し、窓ガラスは割れたまま、トイレや水道施設は全く使用できないなどの状態が何年も続いていました。約2ヶ月に及ぶ修復工事を経て、幼稚園は見違えるように再建されました。「園児たちはもちろんのこと、園児の親たちも、幼稚園の教員も職員も、全く新しい幼稚園になったようだと、大変喜んでおります。」園長のハッサン先生も嬉しそうです。「教室にはストーブも入れていただきました！以前には望むこともできなかったことです。」



「再建前のアル・ウオーロード幼稚園」



「再建後のアル・ウオーロード幼稚園」

アル・ウオーロード幼稚園で学び、遊ぶ園児たちは、現在175名です。この教室での記念撮影を行うにあたって、「日本の皆さんに幼稚園の様子を紹介します。」と説明すると、当日は皆それぞれに精一杯おめかしをして笑顔で写真に収まってくれました。そして、何かメッセージは？と尋ねると、「日本の皆さん、ぜひ私たちの幼稚園を見に来てください！」と元気いっぱいに答えてくれました。



「アル・ウオーロード幼稚園の園長先生と子ども達」

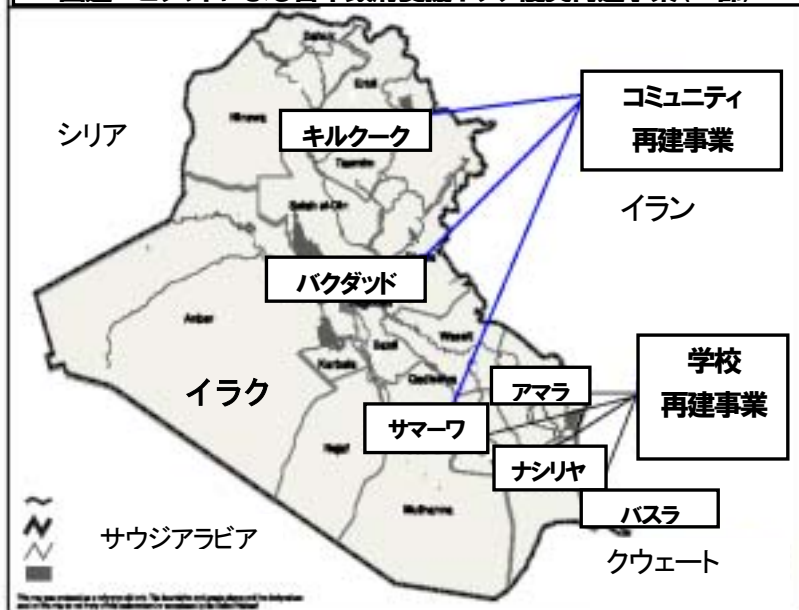
～イラク特集号VOL. II<コミュニティを再建する>は

2005年春発行予定です～



国連ハビタットのイラク復興支援事業は、学校再建だけではありません。次号では、首都バグダッドやサマーワで進行中のコミュニティ再建事業をご紹介します。貧困地区や戦争で夫を失った世帯を中心に、戦争被害や劣化した集合住宅等を修復し、イラクの人々が1日も早く生活の基盤を取り戻せるよう、出来る限り地域や個々のニーズに沿った修復を行っています。

国連ハビタットによる日本政府支援イラク復興再建事業(一部)



取材・編集後記

イラクの治安が依然として予断を許さない状況にあることは、メディアを通して皆様をご覧になっている通りです。国連の復興支援活動自体が攻撃対象となる可能性が否定できない以上、国連ハビタットでは最も「目立たない」形を模索しながらの再建事業に注力しており、従ってこのような広報活動にもある程度制約が加えられます。これは、国連ハビタットのイラク事業に関わる全ての人や受益者、そしてハビタットのスタッフの安全を確保するために必要な措置であると考えております。しかしながら、日本の皆様からいただいたご支援が、どのような形でイラクの人々に貢献しているのかを正確にお知らせすることも私どもの重要な使命であり、今後とも状況が許す限り、このような現地の声をお伝えしてまいりたいと考えております。

国連ハビタット イラク担当官 星野幸代

この特集に関するお問合せ先

国連ハビタット福岡事務所（アジア太平洋地域事務所）

福岡市中央区天神 1-1-1 アクロス福岡 8 階 TEL 092-724-7121 / FAX 092-724-7124



国連ハビタットのイラクにおける支援活動の詳しい進捗状況や現地の写真、またその他地域における活動の詳細は、ホームページにてご覧いただけます。

<http://www.fukuoka.unhabitat.org/>

▼▼日本ハビタット協会は、国連ハビタットの活動を支援しています。▼▼

「紛争後のまちづくり募金」にご協力下さい

国連ハビタットは、イラク、アフガニスタン、カンボジアなど、戦争や災害で疲弊した「まち」の再建復興事業を実施しています。「人の幸せをささえる“まちづくり”」に御協力を宜しくお願い致します。

- 郵便振替 00150-2-17590 日本ハビタット協会
- みずほ銀行 麹町支店 普通口座 210-8468 日本ハビタット協会
- あおぞら銀行 本店 普通口座 6753952-001 特定非営利活動法人日本ハビタット協会

特定非営利活動法人日本ハビタット協会

(発行責任 山本博子 ; 編集責任 飯田綾)

(監修: 国連ハビタット 星野幸代)

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-12 ふくおか会館1階
TEL 03-3512-0355 e-mail: info@habitat.or.jp

〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡8階
TEL 092-724-7121 email: fukuoka@habitat.or.jp

HP: <http://www.habitat.or.jp>